平成 20年 12月 24日

各　位

会社名　アンリツ株式会社
代表者名　代表取締役社長　戸田　博道
(コード番号　6754　東証)
問合せ先　コーポレートコミュニケーション部長
川辺　哲雄
(TEL　046 - 296 - 6507)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年10月29日に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1．平成21年3月期連結通期 業績予想数値の修正（平成20年4月1日 ～ 平成21年3月31日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）（平成 20年 10月 29日 発表）	97,000	4,000	3,000	500	3.92
今回修正予想（B）	87,000	△ 500	△ 1,500	△ 4,000	△ 31.38
増減額（B－A）	△ 10,000	△ 4,500	△ 4,500	△ 4,500	-
増減率（%）	△ 10.3	-	-	-	-
（ご参考）前期実績（平成20年3月期）	100,485	5,356	△ 2,006	△ 3,900	△ 30.60

２．修正の理由

米国を起点とする金融危機と景気後退が世界的に深刻化するなか、主力の計測器事業では、11月以降、顧客の設備投資抑制や投資先送りの動きが顕著となってきており、為替についても想定を上回る円高水準で推移しています。移動通信分野では、第3.9世代（3.9G）移動通信システムのLTE（Long Term Evolution）関連市場が活発化する一方、汎用計測器分野での需要減少が見込まれます。また、産業機械事業においても前回予想を下回る見込みとなることから、通期業績予想を下方修正するものです。

当社グループは、主力の計測器事業において「利益ある成長」戦略を再構築する「経営革新 2008」のもと、収益性改善と競争力強化のための施策に取り組んでまいりましたが、さらに激変する市場環境にも対処すべく、追加施策を順次実施する所存であり、2009年 1月に予定している第３四半期決算発表時にあらためて公表する予定です。

（参考）

事業別売上高の予想（平成21年３月期連結通期）

(単位：百万円、%)

	前回発表予想 (A)（平成20年10月29日発表）	今回修正予想 (B)	増減額 (B－A)	増減率（%）	前期実績
売　上　高	97,000	87,000	△10,000	△ 10.3	100,485
計　測　器	69,000	60,000	△9,000	△ 13.0	72,717
情　報　通　信	6,000	6,000	-	-	5,749
産　業　機　械	14,500	13,500	△1,000	△ 6.9	13,595
サ　ー　ビ　ス　他	7,500	7,500	-	-	8,422

（参考）想定為替レート（第４四半期）：1米ドル＝90円

事業別営業利益の予想（平成21年３月期連結通期）

(単位：百万円、%)

	前回発表予想 (A)（平成20年10月29日発表）	今回修正予想 (B)	増減額 (B－A)	増減率（%）	前期実績
営　業　利　益	4,000	△ 500	△4,500	-	5,356
計　測　器	2,500	△ 1,500	△4,000	-	4,126
情　報　通　信	100	0	△100	△ 100.0	76
産　業　機　械	1,000	600	△400	△ 40.0	814
サ　ー　ビ　ス　他	400	400	-	-	338

（注意事項）
本発表資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定や判断に基づくものであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。
実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場のなかでアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。ただし、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。